

近畿地方整備局 九頭竜川ダム統合管理事務所
資料配布

配布 日時	平成23年 8月 9日(火) 15時00分
----------	--------------------------

件名	九頭竜ダム湖、真名川ダム湖内での水面変色について(第2報)
----	-------------------------------

概要	九頭竜ダム湖、真名川ダム湖の水面変色の原因は、植物プランクトンの増殖による淡水赤潮でした。 なお、毒性はなく、人体に影響を及ぼすものではありません。
----	---

取り扱い	
------	--

配布場所	大野市 情報広報課
------	-----------

お問い合わせ先
近畿地方整備局 九頭竜川ダム統合管理事務所
管理課長 宮本 昇(内線331)
電話 0779-(66)5300(代)

九頭竜ダム湖、真名川ダム湖内での水面変色 について（第2報）

8月4日14時頃、九頭竜ダム湖、真名川ダム湖内において、ダム管理支所職員がダム湖水面で発見した変色の原因が確認されました。

- ・ 九頭竜ダム湖の変色の原因は、渦鞭毛藻綱のペリディニウム属のペリディニウム・ビペス *Peridinium bipes*^(*1)を優占種とする植物プランクトンの増殖による淡水赤潮でした。
- ・ 真名川ダム湖の変色の原因は、黄色鞭毛藻のサヤツナギ *Dinobryon bavaricum*^(*2)、ウログレナ *Uroglena sp.*^(*3) 及び珪藻のホシガタケイソウ *Asterionella formosa*^(*4) を優占とする植物プランクトンの増殖による淡水赤潮でした。

増殖の要因として、大雨による栄養素を含んだ濁水の流入と日照・水温の上昇等の条件が重なったことが挙げられます。

今回確認された種は、いずれも定期水質調査でも確認されている種であり、毒性はなく、人体に影響を及ぼすものではありません。

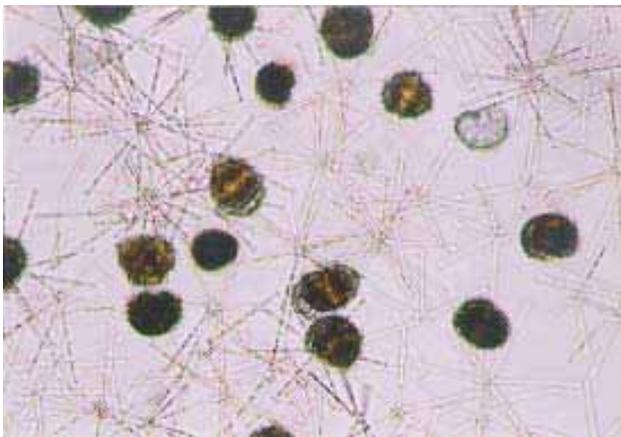
本日11時頃ダム湖面の状況を確認したところ、九頭竜ダム湖においては引き続き変色確認されていますが、真名川ダム湖で変色はみられておりません。今後も引き続き監視を行います。

*1: 「ペリディニウム ビペス」は、西日本の湖や池に広く分布し、春から夏にかけて増殖して赤褐色ないし黄褐色の淡水赤潮を形成することがあります。細胞は卵形、洋梨形又は球形で、長さ28~40 μm ・幅25~37 μm で上殻と下殻の大きさはほぼ等しい。この種は、日中は表層近くに集積する性質があり、ダム上流端付近では表水の逆流や停滞等により異常集積することがあります。

*2: 「サヤツナギ」は全国各地の湖沼・湖水などいたるところの水域に見られ、被殻が樹枝状に連なった群体を形成する。被殻は長さ50~120 μm ・直径6~10 μm の円筒形で側縁に3~7個の波形がある。

*3: 「ウログレナ」は、多数の細胞が共通の寒天質基質の表面に集まって球状の群体を形成する。細胞は2本の鞭毛を持ち、群体は回転しながらゆっくり泳ぐ。ウログレナは光に向かって移動する性質(走光性)を持っているため、風が穏やかな晴天時に水面に集まる習性がある。

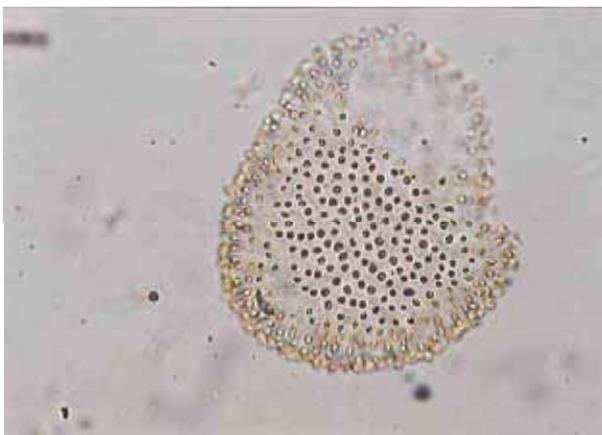
*4: 「ホシガタケイソウ」は、全国各地の湖沼に広く分布する普通種で、星形あるいは稀にジグザグ状の群体を形成する。細胞は長さ 40 ~ 130 μm ・幅 1 ~ 2 μm で、条線は、10 μm に 25 ~ 28 本。



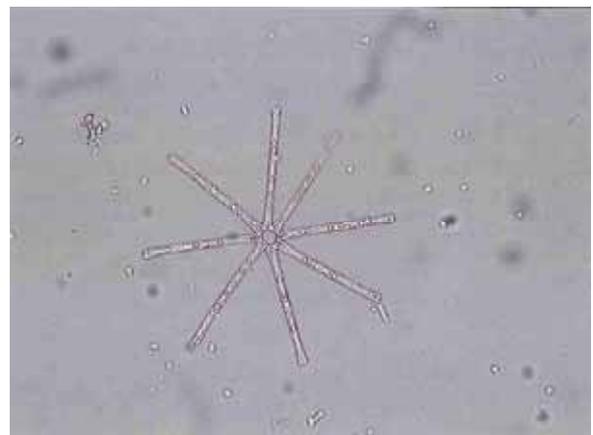
*1 ペリディニウム・ビベス



*2 サヤツナギ



*3 ウログレナ



*4 ホシガタケイソウ